

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第753号 平成26年6月16日

性格スキルの向上（1）

今、街中を歩いていると、リクルースタイルの若者を多く目にします。彼等は、就活の真っ最中なのだろうと思います。景気が少し良くなってきたせいもあり、大学生や高校生の就職率は改善の傾向にあるとはいえ、個別に見れば、就職戦線は依然として厳しいものがあります。最初の就職はその後の人生を大きく左右しますので、学生達には自身の力をよく見極めると共に、必要な情報を収集し、計画的、かつ、積極的に目標に向かってチャレンジして欲しいと思っています。

ところで、今年の1月20日付日本経済新聞に、就活中の学生にも参考になる記事が掲載されていましたので、紹介したいと思います。

それは、「経済教室」に慶応大学の鶴光太郎教授が寄稿した「授業支援は『性格力重視』で」という一文です。

この中で鶴教授は、安倍総理の年頭所感を引用しつつ、アベノミクスの3本目の矢である成長戦略の中でも、人づくりがとりわけ重要な課題だと位置付けています。

同時に、「人づくりは就業前の教育と就業後の人材育成を一体として進めるべきだが、学校教育も就業後の人材育成も共に日本的雇用システムの変容や揺らぎの中で明確な軸を失っているように見える」と指摘しています。

確かに、大学であれ高等学校であれ、就職も進学も希望しないまま卒業してしまう学生が少なくないし、また、就職しても3年以内に辞めてしまう学生が3割を超えているという現状をみると、学校教育における人材育成が成功しているとはいえないものがあります。

折角就職したのに早々に辞めてしまう若者の中には、能力不足で就職先での仕事についていけないというケースも少なくありません。

昔は、それぞれの企業が社員研修を通じて人材を育成して来ましたが、しかし、終身雇用制が崩れた今、企業では「即戦力の人材」を求めるようになって来ましたが。その背景には、企業が生き残るためには経営環境の急速な変化に即応する必要がある事に加え、企業間の厳しい競争の中、以前のように人材育成に力を割く事が難しくなって来ている事が考えられます。

しかし、如何なる企業もその活動を支えているのは人材であり、その人材を外から持って来るか、内部で育成するかは別にして、人材を確保できない企業は早晚競争の表舞台から撤退せざるを得なくなる事は明らかです。

今後我が国が、次代を担う有為な人材の育成に失敗すれば、個々の企業のみならず我が国そのものが、グローバル経済の中で埋没して行くに違いありません。

(塾頭：吉田 洋一)